

医 第 1 7 4 9 号
平成27年12月24日

千葉市保健福祉局長
船橋市保健所長
柏市保健所長
各保健所長

千葉県健康福祉部医療整備課長
(公印省略)

医療機関等におけるノロウイルスの院内感染予防対策の徹底について

このことについて、平成27年12月22日付け事務連絡により厚生労働省
医政局地域医療計画課から別添のとおり通知がありましたので、了知されると
ともに管内医療機関への指導方お願いします。

なお、下記の団体等には別途送付したことを申し添えます。

記

公益社団法人千葉県医師会
一般社団法人千葉県歯科医師会
一般社団法人日本病院会千葉県支部
一般社団法人千葉県助産師会
一般社団法人千葉県民間病院協会
公益社団法人全日本病院協会千葉県支部
公益社団法人全国自治体病院協議会千葉県支部
一般社団法人千葉県老人保健施設協会
各病院管理者





事務連絡
平成27年12月22日

各 { 都道府県
保健所設置市 } 衛生主管部(局)
{ 特別区 } 院内感染対策主管課 御中

厚生労働省医政局地域医療計画課

医療機関等におけるノロウイルスの院内感染予防対策の徹底について

感染性胃腸炎については、例年、今月中旬にピークになる傾向であり、特にノロウイルスによる感染性胃腸炎に注意が必要になります。

これについては、「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの感染予防対策の啓発について」(平成27年10月23日厚生労働省健康局結核感染症課、医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部監視安全課事務連絡)により、感染予防対策の啓発について通知されているところです。

貴部局におかれましては、「医療機関等における院内感染対策について」(平成26年12月19日医政地発1219第1号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知。)等を参考に、所管の医療機関等に対し、更なる手洗いの徹底や、糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策について重ねて周知徹底するとともに、医療機関等に対し、院内感染によるノロウイルスの集団感染を疑う場合や、院内感染との因果関係が否定できない死亡事例が発生した場合は、速やかに管轄保健所に報告し、支援を受けるよう周知をお願い致します。

また、院内感染対策担当部局におかれましては、感染症対策担当部局と連携を図りながら対処のほど、お願い致します。なお、所管の医療機関等においてノロウイルスに関する報道発表等を行う場合には、当課に情報提供をお願い致します。

(参考)

○ノロウイルス検出状況2015/16シーズン(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>

○ノロウイルスに関するQ&A(最終改定:平成27年6月30日)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

(問い合わせ先)

厚生労働省医政局地域医療計画課

課長補佐 山本

医療監視専門官 宮崎・都竹

直通電話 03-3595-2194

F A X 03-3503-8562





事務連絡
平成 27 年 10 月 23 日

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省 健康局 結核感染症課
医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部監視安全課

感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの感染予防対策の啓発について

日頃から感染症対策に御協力賜り厚くお礼申し上げます。

感染性胃腸炎の患者発生は、例年、12月の中旬頃にピークとなる傾向があります。この時期に発生する感染性胃腸炎のうち、特に集団発生例の多くは、ノロウイルスによるものであると推測されており（※1）、ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒の発生動向には注意が必要となります。

本年においては、平成 27 年 9 月 30 日付け厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長通知「ノロウイルスによる食中毒の予防について」により、これまで検出例の少ない遺伝子型（GII.17）のノロウイルスについて注意喚起をしているところです。国立感染症研究所（以下、「感染研」という。）によると、この秋以降発生している集団感染事例について、地方衛生研究所で検査を実施し検出されているノロウイルスのほとんどが GII.17 であり、今シーズンの感染性胃腸炎についてノロウイルスによるものでは GII.17 が主流となる見通しとしており、流行が拡大する可能性があります。

加えて、ノロウイルス GII.17 については、これまでの流行の主体であったノロウイルス GII.4 と比較して、現在市中で使用されているノロウイルス迅速診断検査キット（ICキット）による検出感度が低いことが報告されています（※2）。このことから、感染研は、同診断キットを用いた場合、ノロウイルスによる感染症と診断されず感染予防対策の遅れにつながる恐れがあることなどを指摘していますので十分ご注意ください。

つきましては、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が急増するシーズンに備え、「ノロウイルスに関する Q&A」（平成 16 年 2 月 4 日作成 ※3）及び「ノロウイ

ルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」（※4）等を参考に、手洗いの徹底、糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策の啓発に努めるようお願いいたします。

また、これまで感染者が食品の調理に従事することによる食中毒も多発していることから、平成19年10月12日付け医薬食品局食品安全部長通知「ノロウイルス食中毒対策について」等を参考にノロウイルスによる食中毒の発生防止対策にも留意願います。

「参考」

（※1）ノロウイルス等検出状況 2015/16シーズン

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>

（※2）ノロウイルス GII.17 型の流行とその特徴について－三重県（IASR 2015年5月号）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1023-disease-based/na/norovirus/idsc/iasr-in/5695-kj4233.html>

Evaluation of immunochromatography tests for detection of novel GII.17 norovirus in stool samples (Eurosurveillance 2015年7月16日)

<http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=21185>

（※3）ノロウイルスに関するQ&A（最終改定：平成27年6月30日）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryous/hokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

（※4）ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）

<http://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>